

2019年7月9日 国際協力・研究部会議（報告）
2019年7月9日 RCAPS 運営委員会（報告）
2019年7月16日 大学評議会（報告）
（報告：リサーチ・オフィス）

国際協力・研究部（ICRD）および立命館アジア太平洋研究センター（RCAPS）
における2018年度活動実績等のまとめについて（報告）

国際協力・研究部（ICRD）は、本学における研究活動の推進と調整を担っており、各種研究支援を実施している。また、立命館アジア太平洋研究センター（RCAPS）は、本学に設置された全学的な研究機関として、学際的で分野横断型なアジア太平洋研究を推進するとともに、その研究成果を積極的に対外発信する役割を担っている。

2018年度に関して、ICRD・RCAPSそれぞれにおける研究支援制度の運用結果、および活動実績等について、以下の項目別に報告する。

1. 2018年度科研費採択実績
2. その他の学外からの研究資金の2018年度獲得実績
（受託研究費・共同研究費・奨学寄附金等の受入）
3. 2018年度APU学術研究助成による採択実績
4. APU学術図書出版助成の採択結果
5. 2018年度APU学会発表補助制度の採択実績
6. 学外研究員制度（ADL）適用実績
7. 2018年度大学院修士課程学生フィールド・リサーチ補助制度による採択実績
8. 博士後期課程学生対象研究支援制度 採択実績
9. アジア太平洋カンファレンス（APC）の開催概要
10. 2018年度RCAPSセミナー・RCAPSカレントリサーチセミナー開催実績
11. RCAPSにおける学術誌の刊行実績
12. 2018年度RCAPS特別研究員の受入れ実績
13. RCAPS有期限の付属研究センターの活動実績
14. 地域連携研究コンソーシアム大分活動実績
15. その他の研究関連活動実績

以上

1. 科研費

2018年10月16日 国際協力・研究部会議

2018年10月23日 大学評議会

2018年10月24日 教員懇談会

(起案：リサーチ・オフィス)

2018（平成30）年度科学研究費助成事業採択結果

2018年度科学研究費助成事業（科研費）の採択結果について以下報告する。基盤研究(C)（特設分野）および挑戦的研究（萌芽）の結果が2018年7月に公表されたため、2017年度に続き秋に全体報告を行う。

1. 申請・採択結果の概要

2018年度科学研究費助成事業（科研費）について、本学から申請した45件のうち10件が新規で採択され、2018年度科研費の新規採択率は22.2%となった。（国際共同研究加速基金および研究成果公開促進費を含む）前年度に比べて申請件数は40件から45件に増加したが、採択率は30.0%から22.2%に低下した。（【表1】参照）教員所属別採択件数および言語別の採択状況は【表2】をご参照頂きたい。2018年度は、新規採択課題10件、直接経費は31,400千円、間接経費9,420千円であり、継続課題30件の直接経費26,805千円、間接経費9,480千円である。今年度の受入合計は基盤研究(c)の延長分4件を含む36課題、直接経費58,205千円、間接経費18,900千円となった。

【表1】科研費採択結果（単位：千円）

年度	応募件数	新規採択件数	新規採択率	新規採択金額	継続課題件数	継続課題金額	合計件数	合計金額
2018	45	10	22.2	40,820	30	36,285	36	77,105
2017	40	12	30.0%	24,700	25	38,572	37	63,272
2016	39	11	28.2%	31,850	24	33,755	34	65,605

- ・各金額は、本学研究代表者の直接経費と間接経費の合計額。基金化対象の研究課題は研究期間全体を通じた交付決定が行われるが、本報告では2018年度に交付される単年度の数字のみを計上。
- ・国際共同研究加速基金については交付申請した年度の新規採択件数および採択金額欄に記載。

2. 研究種目別の特徴と課題

2018年度の種目別申請および採択結果等については【表3】の通りである。採択された研究種目別の特徴については以下のとおり。

(1) 基盤研究(B)

2018年度新規採択課題2件、継続課題3件。採択課題はいずれも観光分野であった。基盤研究(B)は本学にとって大型の研究費であり、基盤研究(B)の保有数が、科研費受入額全体に大きな影響を与える。2016年度・2017年度は各1件の採択数であったが、2018年度は新規採択課題件数が2件となり科研費受入額全体に寄与した。

(2) 基盤研究 (C)

2018 年度新規採択課題 6 件、継続課題 18 件。新規採択課題件数は昨対比 1 件減少した。採択された課題は教育関連分野 3 件、観光分野 1 件、国際関係 1 件、言語学 1 件であった。本種目は本学の科研費の中核であり、直接経費と間接経費を足した総額で 24,280 千円という結果となった。

(3) 挑戦的研究

2018 年度新規採択課題 0 件、継続課題 1 件。JSPS は 2018 年度も 2017 年度に続き充足率を重視し採択件数は絞っている。(2018 年度の全国平均採択率 12.1%) 2019 年度申請分もこの方針で継続予定のため、同種目の申請書に研究業績記入欄がないという理由だけで安易に本種目への申請を行うことがないよう、申請者への働きかけが引き続き必要である。

(4) 若手研究

2018 年度新規採択課題 0 件、継続課題 3 件。2018 年度から種目名が変更となり、従来の若手研究 (A) は新規募集を停止した。2018 年度からは研究期間 2 年～4 年、応募総額 500 万円以下の「若手研究」の募集のみとなった。若手研究は改編前から全国平均の採択率が約 30%と比較的採択されやすい種目であるにも関わらず、本学では各種研究支援が採択件数に結びつかなかった。昨年より申請要件が「博士課程の学位を取得して 8 年未満の者」および 3 年程度の経過措置として「39 歳以下の博士の学位身取得の研究者が一人で行う研究計画」となったが、2018 年度募集は採択率の全国平均が 30.7%となり以前よりも向上しているため申請要件の変更による大きな影響はほぼないと考えられる。

(5) 全体を通して

2018 年度は以下 3 点が特徴的であった。

① 基盤研究 (C) で CLE から 3 件の課題が新規採択されたこと

日本語教育関連分野から 2 件、高等教育学関連分野から 1 件が採択された。日英二言語教育を標榜する本学において、言語教育は必要不可欠な存在であるとともに、本学らしい研究内容が存在する大きな可能性を秘めている。

② 観光分野で 3 件の課題が新規採択されたこと

基盤研究 (B) の 2 件および基盤研究 (C) の 1 件が観光分野で採択となった。申請書の使用言語は 3 件全て英語である。2020 年東京オリンピックを見据えて観光関連分野やインバウンドなどへの関心が高まる中での採択となった。

③ 国際共同研究強化で 2 件の課題が採択されたこと

昨年に続き同種目で 2 件の課題が採択された。今後、本学として海外の大学や研究機関との共同研究を強化に向けて大きな可能性を秘めている。

2018 年度の科研費新規申請数は 2017 年度に続き全体で 10 万件を超え、研究者の間で科研費の需要がますます高まっている。各大学や研究機関でさらに競争が激化し、国立大学や大学以外の研究機関でも URA (University Research Administrator) や事務職員が組織的にきめ細やかな支援をするようになった。2017 年に科研費改革が行われ、科研費獲得を目的とした内向き短期的に結果の出る研究ではなく、グローバル競争が激化する中で日本の将来を担うような新規性・挑戦性・社会への還元性のある研究がより一層求められるようになった。特に、科研費は税金を原資とした制度であるため社会への波及効果

は大きく問われると考えられる。また、審査方法が変更となり専門外の審査委員が審査する場合もあるため、より客観的な論拠に基づき第三者に分かりやすいことが大切である。

今後ますます社会で科研費の重要性が増す中で、科研費申請の要望を持つ教員に対しどのような支援が必要か引き続き国際協力・研究部で検討を行っていく。

以上

【表 2】 教員所属別採択件数および言語別

採択件数			
所属	2018	2017	2016
APS	6 (うち日本語3、英語3)	6 (うち日本語4、英語2)	4 (うち日本語4、英語0)
APM	1 (うち日本語1、英語0)	3 (うち日本語1、英語2)	7 (うち日本語4、英語3)
CLE	3 (うち日本語3、英語0)	0	0
EDLSC	0	2 (うち日本語2、英語0)	0

【表 3】 種目別申請および採択結果

2018年度(金額単位:千円)												
研究種目		申請件数	新規課題 採択件数	新規課題 採択率	新規課題 採択金額 (直接経費)	新規課題 採択金額 (間接経費)	継続課題 件数	継続課題 金額 (直接経費)	継続課題 金額 (間接経費)	合計件数	直接経費 合計金額	間接経費 合計金額
基盤研究(B)	一般	7	2	28.6%	5,900	1,770	3	6,800	2,040	5	12,700	3,810
基盤研究(C)	一般	24	6	25.0%	6,700	2,010	18	16,505	3,930	24	23,205	5,940
	特設	1	0	0%	-	-	0	-	-	0	-	-
若手研究	-	3	0	0%	-	-	3	1,900	570	3	-	-
挑戦的研究(萌芽)	-	4	0	0%	-	-	1	1,600	480	1	-	-
国際共同研究加速	-	4	2	50.0%	18,800	5,640	2	18,119	2,460	4	36,919	8,100
研究成果公開促進	-	2	0	0%	-	-	-	-	-	-	-	-
合計		45	10	22.2%	31,400	9,420	27	44,924	9,480	37	76,324	18,900

2.その他の学外からの研究資金の2018年度獲得実績（奨学寄附金を含む）

／2. Attainment of Other External Research Funds (Including Scholarly Donations) AY2018

① 共同研究 Joint Research

(単位:千円Unit:\1000)

委託者 Grantor	研究担当教員 Researcher			研究課題 Research Title	受託研究費 Amount Granted
	学部 College	職名 Position	氏名 Name		
					—

② 受託研究 Commissioned Research

(単位:千円Unit:\1000)

委託者 Grantor	研究担当教員 Researcher			研究課題 Research Title	受託研究費 Amount Granted
	学部 College	職名 Position	氏名 Name		
					—

③ 学外研究助成 Outside Research Subsidies

(単位:千円Unit:\1000)

助成財団 Funding Agency	研究担当教員 Researcher			研究課題 Research Title	研究費 Amount Granted
	学部 College	職名 Position	氏名 Name		
高橋産業経済研究財団 Takahashi Industrial and Economic Research Foundation	CLE	特任講師 Tenured Senior Lecturer	石村 文恵 ISHIMURA Fumie	地域で作る多文化社会の災害時支援－多言語支援グループ研修における行動認識の相違と意識変化の分析をもとに－	1,100

④ 奨学寄附金 Including Scholarly Donations

(単位:千円Unit:\1000)

委託者 Grantor	研究担当教員 Researcher			研究課題 Research Title	受託研究費 Amount Granted
	学部 College	職名 Position	氏名 Name		
株式会社九電工 Kyudenko Corporation	APM	助教 Assistant Professor	篠原 欣貴 SHINOHARA Yoshiki	社会的イノベーションの成功要因と失敗要因の研究 :社会起業家のネットワークとイノベーションの成功・失敗の関係	1,000

⑤ 学術研究振興資金 Research Plans for Science Research Promotion Fund

助成財団 Funding Agency	研究担当教員 Researcher			研究課題 Research Title	研究費 Amount Granted
	学部 College	職名 Position	氏名 Name		
					—

⑥ 受託事業 Commissioned Projects

(単位:千円Unit:\1000)

委託者 Grantor	事業担当教員 Faculty Member			事業内容 Project Title	受託事業費 Amount Granted
	学部 College	職名 Position	氏名 Name		
大分市産業活性化プラザ Oita City Industrial Development Plaza	APM	教授 Professor	牧田正裕 MAKITA Masahiro 藤本武士 FUJIMOTO Takeshi (APU-NEXT)	「APU次世代事業構想センター（APU-NEXT）：世界で活躍するリーダー企業－グローバル・ニッチトップ企業の経営戦略講座」全5回 "APU-NEXT: The World's Leading Companies - Management Strategies of Global Niche Top Companies" Lectures (5 lectures)	350

3. 2018年度 APU学術研究助成による採択実績 / Screening Result for AY 2018 APU Academic Research Subsidy

	2016	2017	2018
執行額	12,565,175	13,023,429	9,500,000
採択件数	40	42	51 ※2件取り下げ
特別研究奨励金 採択者除く うち翌年度 科研費採択数	16	13	15
	3	2	4

(アルファベット順)

特別研究奨励金				
№	所属	研究代表者		研究課題
		職位	研究代表者名	
1	APS	准教授	山下 博美	干潟再生事業における住民認識に根ざした新・環境コミュニケーションモデルの構築
2	APS	教授	四本 幸夫	日本の世界農業遺産(GIAHS)地域の観光を通じた農村振興に関する比較研究
3	APS	教授	吉田 香織	Uncovering the black-box of educational dark tourism: Comparative analysis of the mechanisms of packaging and perceiving of war narratives through war heritage sites between former enemies
4	APS	教授	LEE Timothy	The opportunity development for the role of Japanese food overseas as an ambassador for tourism marketing
5	APS	教授	轟 博志	朝鮮における古代道路の歴史地理学的復原に関する基礎的研究(国際共同研究強化)
6	APS	教授	井口 由布	セクシュアリティと国民化--マレーシアにおける女性器切除からみる言説の政治--(国際共同研究強化)
7	APS	教授	井口 由布	セクシュアリティと国民化--マレーシアにおける女性器切除からみる言説の政治--
8	APS	教授	清家 久美	現代社会における〈農村コミュニティ〉の意義についての研究
9	APS	教授	木村 力央	途上国の社会的企業における宗教性と組織文化: 質的調査に基づく国際比較研究
10	APS	准教授	吉川 卓郎	アラブ王制持続の総合的研究 ヨルダン・ハシミテ王国とその周辺空間を巡って
11	APS	准教授	BUI Thanh Huong	Post-disaster Destination Image: Marketing, Communication and Sustainable Recovery
12	APS	教授	田原 洋樹	旧ベトナム共和国のベトナム語・1975年を境とする連続と非連続
13	APS	教授	吉本 智慧子	女真大字と契丹大字の比較研究に基づく文献解読の新展開
14	APS	教授	吉松 秀孝	一帯一路構想に対する中国周辺国の戦略的対応に関する比較研究
15	APS	准教授	JONES THOMAS	説得的コミュニケーションによる外国人観光客の普及啓発—地獄谷野猿公苑の事例研究
16	APS	教授	MANTELLO Peter A.	Medusa's Gaze: The Politics and Aesthetics of Horror in the Age of Hyperviolence
17	APS	助教	児島 真爾	労働者派遣法の比較制度分析:ドイツ、韓国、日本の事例から
18	APM	教授	藤本 武士	グローバル・ニッチトップ(GNT)企業の企業横断的育成モデルの構築に関する研究
19	APM	教授	夏田 郁	東南アジアと東欧自動車産業発展の比較研究:産業政策・生産ネットワーク・地域発展
20	APM	教授	牧田 正裕	観光地域づくり組織を支えるガバナンスとファイナンス:国際比較を通じて
21	APM	教授	BARAI Munim Kumar	Islamic Microfinance as a Tool for Poverty Alleviation: The Case of Bangladesh and Indonesia
22	APM	教授	KIM Rebecca ChungHe	Creation of CSV Model for Asia: A Study of Japan, Korea and China
23	APM	教授	鈴木 勤一郎	サービス業における新たな知識創造の研究
24	APM	准教授	DRUMMOND Damon	Sustainable CSR Enterprise and Rural Community Business Models
25	APM	教授	KIM Sangho	Analysis on TFP Sources of Growth to Enhance Competitiveness
26	APM	准教授	ALCANTARA L.L.	Unfolding the contested process of innovation diffusion
27	APM	助教	齊藤 広晃	The Staff Oasis: The role of staff break rooms for hospitality employees' wellbeing and performance

研究代表者				研究課題
No	所属	職位	研究代表者名	
28	EDLSC	准教授	金井 秀介	地方独立系小規模映画館の顧客価値創造メカニズムに関する日・英比較研究
29	EDLSC	教授	平井 達也	日本人グローバルリーダーの成長モデル構築と育成プログラム開発
30	CLE	准教授	寺嶋 弘道	コーパスツールユーザーを育成するための教材開発とその検証
31	CLE	教授	本田 明子	日本語教育における災害時情報リテラシーの教育法の開発
32	CLE	講師	廣津 公子	地域との協働で創るグローバル市民育成モデルの開発
33	APM	准教授	高梨 千賀子	IoT時代の技術・特許戦略と企業の境界線-アーキテクチャマッピング分析-
34	APS	准教授	蓮田 隆志	近世ベトナムにおける文書行政の南北比較のための基礎的研究
35	APM	教授	夏田 郁	東南アジアと東欧自動車産業の比較研究：産業政策・生産ネットワーク・地域発展
36	APS	准教授	山下 博美	沿岸生態系インフラを活用した英国防潮堤建設減災事業におけるリスク受容と合意形成

科研費再応募型

研究代表者				研究メンバー	研究課題
No	所属	職位	研究代表者名		
1	APM	助教	篠原 欣貴	—	企業の社会的責任ある行動と社会・環境パフォーマンスの研究：中小企業の国際比較分析
2	APM	教授	鈴木 泰	—	イスラム金融シャリアボードを巡るガバナンス構造の制度的分析
3	APM	准教授	李 根熙	—	共創モデルの再検証と調整変数の影響：日本人観光客を対象に
4	APM	教授	バイセ・ゼー マリアン	—	Japan as a Lead market for Innovation in an Aging Society: A Preference Analysis
5	EDLSC	准教授	筒井 久美子	—	外国人留学生のアルバイト体験に見る多文化共生社会の可能性
6	APS	准教授	銭 学鵬	—	ごみ分別行動変容に関わる要因構造分析と国際比較研究
7	APS	准教授	高柴 優貴子	—	Between Bluntness and Deference in Inter-State Litigations: Case Studies of International Courts and Tribunals through the Prism of Third Party and Expert-driven Evidence
8	APS	准教授	VAFADARI Kazem	COOPER Malcom	Building Community Support for Clean Energy and Environmental Management through Geotourism
9	APS	教授	竹川 俊一	—	憲法を巡る4全国紙の戦後70年 かつては護憲一色も改憲台頭へ、その変遷を考える
10	APM	准教授	中島 克志	—	交換経済、生産経済、貨幣経済の統合と金融政策の資産価値への波及効果について
11	APS	教授	田原 洋樹	—	ベトナム音楽「ボレロ」再興にみる詩的オラリティと言語的アイデンティティ
12	EDLSC	教授	秦 喜美恵	—	国際化する大学における初年次教育の実践：日本人学生と留学生による多文化小集団形成

科研費準備型

研究代表者				研究メンバー	研究課題
No	所属	職位	研究代表者名		
1	APS	准教授	ASKEW David J.	—	読者と俳優——ジェーン・オースティンの『マンスフィールド・パーク』と政治思想史
2	APS	教授	総田 芳憲	—	北朝鮮の国際人材育成
3	APM	教授	藤本 武士	—	グローバルに活躍する中小企業と臥龍イノベーションに関する研究

4. Acceptance for APU Academic Publication Subsidy

AY	No.	Representative			Type	Book or Article Name
		Affiliation	Position	Name		
2009	1	APM	Prof.	ZHANG Wei-Bin	Article	A Discrete Heterogeneous-group Economic Model with Endogenous Leisure Time
	2	APS	Associate Prof.	YOTSUMOTO Yukio	Book	Americanizing Japanese Firms: The Institutionalization of Corporate Philanthropy and Volunteerism in American Communities
	3	APS	Associate Prof.	PISHVA Davar	Article	Spectroscopically Enhanced Method and System for Multi-Factor Biometric Authentication
	4	APS	Associate Prof.	PISHVA Davar	Article	Smart Classrooms for Distance Education and their Adoption to Multiple Classroom Architecture
	5	APS	Prof.	COOPER M.	Book	Volcano and Geothermal Tourism
	6	APS	Prof.	PISHVA Davar	Article	A survey on the state of information security at local governments in Japan
	7	APS	Prof.	FUJIMURA Kazuhiro	Book (Translation)	ラオス現代史
2010	8	APM	Prof.	NAMBA Masanori	Book	Innovation Management-Family Business Comparative Management Analysis-
	9	APM	Prof.	WANG Mariner	Book	The Essence of the Oriental Medicine
2011	10	APS	Assoc. Prof.	TODOROKI Hiroshi	Book	朝鮮王朝の街道-陸上交通体系の歴史地理-
	11	APS	Prof.	PISHVA Davar	Book Chapter	Use of Spectral Biometrics for Aliveness Detection in "Biometrics/Book 2"
	12	CLE	Assoc. Prof.	IIMURO Aki	Article	Incorporating Autonomous Learning into Pre-University English Education
2012	13	APM	Prof.	SUZUKI Yasushi	Book	日本の立ち位置を考える-制度政治経済哲学へのステップ
	14	CLE	Junior Lecturer	WANG Zhenyu	Book	The study of Cai-qiao Xiang dialect (Research on Cai Qiao Dialect of Xiang Chines)
	15	APM	Assoc. Prof.	DIEFENBACH Thomas	Book (Proof-reading and Indexing)	Hierarchy and organization -Toward a general theory of hierarchical social systems
	16	APS	Prof.	SANGA-NGOIE Kazadi	Article	Estimating CO2 Sequestration by Forests in Oita Prefectures, Japan, by Combining LANDSAT ETM+ and ALOS Satellite Remote Sensing Data
	17	APS	Assist. Prof.	QIAN XUEPENG	Article	Principal Component Analysis of Residential Solar Power System Utilization in Japanese Cities
	18	APS	Prof.	SANGA-NGOIE Kazadi	Article	Application of InSAR and GIS Techniques to Ground Subsidence Assessment in the Nobi Plain, Central Japan
2014	19	CLE	Lecturer	MATSUI Kazumi	Book	Meaning of " - teiru" and Aspect in the Russian Language *Unofficial translation
	20	APS	Assoc. Prof.	CHEN Ching-Chang	Book	Regional Responses to the North Korea Crisis
	21	APS	Prof.	COOPER M.J.M	Book (Translation)	Current Trends & Emerging Issues in Medical Tourism
	22	CLE	Lecturer	SAUNDERS Matt	Article	Facilitating Extensive Listening with Non-Graded Materials in EFL Programs
	23	APS	Prof.	AISINGIORO Ulhicun	Book	A Sketch of the Birthplace of the Yaonian Clan of the Large Central Hulji Khitai
	24	APM	Prof.	OTAKE Toshitsugu	Book	Business Strategy in Global Niche Top Companies
2015	25	APS	Prof.	KIM Chan Hoe	Book	A study on the tale of Honjimonogatari (the story of the gods' previous lives as mortals) and folk literature - a cross-country comparison within the East Asian cultural realm
2016	-	-	-	-	-	-
2017	-	-	-	-	-	-
2018	26	APS	Associate Professor	KUBO, Takayuki	Book	Theory of global city ranking

5. 2018年度APU学会発表補助制度の採択実績 / Acceptance for AY2018 APU Academic Conference Presentation Subsidy

●採択件数・執行額推移

年度 / AY	採択件数 / Number of acceptance	執行額 / Subsidized amount
2016	31	2,243,314
2017	20	1,806,188
2018	30	2,798,386

※3件取り下げ / Number of withdrawal of application:3

●2018年度採択一覧 / List of Acceptance for AY2018

No.	申請者(氏名)	所属 / Affiliation	職位 / Position	発表学会等名称 / Name of Conference	発表タイトル / Presentation Title
18-01	KASEDA Yoshinori/総田芳憲	アジア太平洋学部 / College of Asia Pacific Studies	教授 / Professor	The 59th Annual Convention of the International Studies Association / 国際政治学会 年次大会	Japan's Response to North Korea's Military Expansion under Kim Jong-un
18-02	FUJII Seiichi/藤井 誠一	国際経営学部 / College of International Management	教授 / Professor	25RD INNOVATION AND PRODUCT DEVELOPMENT MANAGEMENT CONFERENCE / 第23回イノベーション & 製品開発マネジメント学会	Serial Innovators in Collectivistic Organizations: Conceptual Development and Propositions / 集団主義組織におけるシリアルイノベーター: 概念開発と仮説提示
18-03	CLASTER William B./CLASTER William B.	国際経営学部 / College of International Management	教授 / Professor	EMAB EuroMed Academy of Business	LESSONS LEARNED IN LAUNCHING A PILOT BUSINESS ANALYTICS UNDERGRADUATE PROGRAM,
18-04	SUZUKI Yasushi/鈴木 泰	国際経営学部 / College of International Management	教授 / Professor	日本金融学会2018年度春季大会	バーレーンおよびインドネシアのイスラム・ベンチャーキャピタル類型論
18-05	NAKAJIMA Katsushi/中島克志	国際経営学部 / College of International Management	准教授 / Associate Professor	BACHELIER SOCIETY 10TH WORLD CONGRESS 2018 / BACHELIER SOCIETY 10TH WORLD CONGRESS 2018	The Dynamics of Commodity Spot, Forward, Futures Prices and Convenience Yield / The Dynamics of Commodity Spot, Forward, Futures Prices and Convenience Yield
18-06	QIAN Xuepeng/銭 学鵬	アジア太平洋学部 / College of Asia Pacific Studies	准教授 / Associate Professor	the 2018 International Conference on Resource Sustainability (icRS2018)	Material-Energy-Financial Analysis of Biomass to Power System: Case Study from Japan
18-07	/JONES Kent	言語教育センター / Center for Language Education	嘱託講師 / Junior Lecturer	Japan Association of Language Teachers Pan Special Interest Group Conference 2018 (JALT PanSIG 2018)	Using Screenshots to Teach Outside of Class /
18-08	/JONES Thomas Edward	アジア太平洋学部 / College of Asia Pacific Studies	准教授 / Associate Professor	2018 Asia Pacific Tourism Association (APTA) conference	"RECREATIONAL RISK COMMUNICATION: FINDINGS FROM MOUNT FUJI, THE JAPAN ALPS AND SHIRETOKO PENINSULA" /
18-09	/ZHANG Wei-Bin.	国際経営学部 / College of International Management	教授 / Professor	VIII FIMEF Financial Research Conference	Growth and Residential Location with Endogenous Land Value in a Small-Open Economy /
18-10	/CHEN Shu-Ching	国際経営学部 / College of International Management	教授 / Professor	Advances in Hospitality and Tourism Marketing and Management Conference	Customer Experience, Value, Satisfaction and Loyalty: Implications in Hospitality /
18-11	KUBO Takayuki/久保 隆行	アジア太平洋学部 / College of Asia Pacific Studies	准教授 / Associate Professor	経済地理学会中部支部6月例会	名古屋・中京大都市圏のグローバル・ポジションに関する考察 - 階層的都市システム研究およびグローバル都市ランキングからのアプローチ
18-12	CUTTING Miki/カッティング 美紀	教育開発・学修支援センター / Education Development and Learning Support Center	准教授 / Associate Professor	The 43rd Annual conference of JSISE / 第43回 教育システム情報学会全国大会	Operation of E-portfolio and Its Assessment in a Study Abroad Program 留学プログラムにおけるeポートフォリオの運用とアセスメント

No.	申請者(氏名)	所属/Affiliation	職位/Position	発表学会等名称/Name of Conference	発表タイトル/Presentation Title
18-13	/CLASTER William B.	国際経営学部 / College of International Management	教授 / Professor	International Conference on Education and Learning ICEL 2018	To Adopt or Not-Business Analytics Program Jn Business Schools
18-14	TAKASHIBA Yukiko/高柴優貴子	アジア太平洋学部 / College of Asia Pacific Studies	准教授 / Associate Professor	International Law Association 2018 Sydney / 国際法協会2018シドニー大会	Role of Cities in International Law : Migration / 国際法における都市の役割: 移民の観点から
18-15	KIMURA Rikio/木村 力央	アジア太平洋学部 / College of Asia Pacific Studies	教授 / Professor	International Conference on Social Enterprise in Asia (ICSEA) 5th Conference	Potential and limitations of critical realist institutional logics for analyzing organizational tensions experienced by Christian social enterprises: Cambodian cases
18-16	JONES Thomas Edward/JONES Thomas Edward	アジア太平洋学部 / College of Asia Pacific Studies	准教授 / Associate Professor	Nexus of Migration and Tourism: Creating Social Sustainability Symposium	Demographic Shift in a World Heritage Super-site: A Case Study of Hoi An's Core Zone 1999-2010
18-17	KIM Sangho/金 相鎬	国際経営学部 / College of International Management	教授 / Professor	Asia Conference on Business & Economic Studies (ACBES) 2018	Dynamic Factor Demand in the Japanese Manufacturing Industry
18-18	SUZUKI Yasushi/鈴木 泰	国際経営学部 / College of International Management	教授 / Professor	The 1st International Conference on Islamic Economics, Business, and Finance (The 1st ICIEBF)[Cordinated by University of Indonesia]	Bringing Paradigm Shift into Strategic Alliance between Islamic Venture Capital and Islamic Microfinance Institution in Indonesia
18-19	UEHARA Yuko/上原 優子	アジア太平洋学部 / College of Asia Pacific Studies	准教授 / Associate Professor	Association for Research on NPOBP / 非営利法人研究学会 第22回全国大会	英国の非営利法人ーチャリティ制度と株式有限責任会社および保証有限責任会社-
18-20	WANG Mariner/汪 正仁	国際経営学部 / College of International Management	教授 / Professor	Japan Port & Economy Association / 日本港湾経済学会	The Status of Panama Canal in International Shipping / 国際海運におけるパナマ運河の地位
18-21	UEHARA Yuko/上原 優子	アジア太平洋学部 / College of Asia Pacific Studies	准教授 / Associate Professor	Japan Internal Control Research Association / 日本内部統制研究学会	NPO法人と業務チェックリスト
18-22	/SAUNDERS Matt	言語教育センター / Center for Language Education	特任講師 / Tenured Senior Lecturer	2018 Korea TESOL International Conference	Using less class time to build listening fluency in an EFL context: Training and motivating students for independent listening practice
18-23	LEE Geunhee/李 根熙	国際経営学部 / College of International Management	准教授 / Associate Professor	Japan Institute of Tourism Research / 日本観光研究学会	Recruiting and motivating student volunteer interpreters for mega events / メガイベントの学生通訳ボランティア募集と動機付け
18-24	/STILP Lance Joseph	言語教育センター / Center for Language Education	特任講師 / Tenured Senior Lecturer	Diversity and Inclusion - 44th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition Shizuoka Convention & Arts Center (Granship) Shimada City, Shizuoka, Japan / 多様性と学習 第44回国際言語学	Diversity Misconceptions in the English Classroom
18-25	/BANKOLE Abidemi Titi	言語教育センター / Center for Language Education	嘱託講師 / Junior Lecturer	Diversity and Inclusion - 44th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition (JALT 2018)	Highly Proficient Bilinguals Share Their Stories
18-26	/PHILLIPS Michael	言語教育センター / Center for Language Education	嘱託講師 / Junior Lecturer	JALT's International Conference. 44th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition	Meyer's Online Cultural Profiling Tool
18-27	/JONES Kent	言語教育センター / Center for Language Education	嘱託講師 / Junior Lecturer	The Japan Association of Language Teachers 2018 International Conference	Teacher and Student Beliefs about Written Feedback
18-28	/BANKOLE Abidemi Titi	言語教育センター / Center for Language Education	嘱託講師 / Junior Lecturer	15th Annual CamTESOL Conference	Making Effective Use of Teaching Assistants (TAs)

No.	申請者(氏名)	所属 /Affiliation	職位 / Position	発表学会等名称 / Name of Conference	発表タイトル / Presentation Title
18-29	/ACKARADEJRUANGSRI Pajaree	国際経営学部 / College of International Management	助教 / Assistant Professor	TASS International Conference on Business, Economics, Management, Humanities & Social Sciences	Job Hopping is on the Rise: What to Offer the Millennials to Reverse the Paradigm
18-30	/ZHANG Wei-Bin.	国際経営学部 / College of International Management	教授 / Professor	2019 4th International Conference on Marketing, Business and Trade (ICMBT 2019)	Tourism, Growth and Business Cycles

6.学外研究員制度 各年度適用者

		APS					APM				CLE	EDLSC	特別措置	特例措置
		氏名1	氏名2	氏名3	氏名4	氏名5	氏名1	氏名2	氏名3	氏名4	氏名	氏名		
2003年度 (02年度募集)	春semester期						汪 正仁							
2004年度 (02年度募集)	春semester期	石井 由香												
	秋semester期	清家 久美											徐 昕	
2005年度 (02年度募集)	春semester期	MANOIMOKE, Supachit	徐 昕											永松 利文
	秋semester期	ASKEW, David J.					THOMPSON, Edmund R.							永松 利文
2006年度 (03年度募集)	春semester期	山本 富美子	MANI, A.					MAJUMDAR, Abdullah-Al-Kafi						
	秋semester期	EADES, Jeremy S.	GUNARTO, Hary			金 賛會	久原 正治							
2007年度 (04年度募集)	春semester期	大橋 克洋				劉 容菁								
	秋semester期	大橋 克洋	SALAZAR, Robert A.				SINHA, Dipendra							
2008年度 (05年度募集)	春semester期	KEE Pookong	畠田 展行	吉松 秀孝 (変更後)										
	秋semester期	KO Yiu- Chung (変更後)	李 燕			汪 正仁								
2009年度 (06年度募集)	春semester期	石井 由香				近藤 まり	藤本 武士	牧田 正裕						
	秋semester期	FELLIZAR, F. Jr. P	MANOIMOKE, Supachit			中田 行彦	牧田 正裕							
2010年度 (08年度募集)	春semester期	AISIN Gioro Uihicum	田原 洋樹	ASKEW, David										
	秋semester期					MAJUMDAR, Abdullah-Al-Kafi	DRUMMOND Damon	鈴木 泰						
2011年度 (09年度募集)	春semester期	笹川 秀夫												
	秋semester期	轟 博志	GUNARTO, Har KHAN, Muhammad T.											
2012年度 (10年度募集)	春semester期	MANTELLO, Peter				ZHANG, Wei-Bin								
	秋semester期	SALAZAR, R. A. C.				ZHANG, Wei-Bin								
2013年度 (11年度募集)	春semester期	AISIN Gioro Uihicum	吉松 秀孝			汪 正仁								
	秋semester期	佐藤 洋一郎	NISHANTHA Giguruwa			中神 正史								
2014年度 (12年度募集)	春semester期	吉川 卓郎	PROGLER Joseph			ASGARI Behrooz	山本 晋							
	秋semester期	藤田 加代子	木村 力央			鈴木 勲一郎	山本 晋			BLACKWELL James				
2015年度 (13年度募集)	春semester期	有井 健	ROSE John A.			金 賛會	夏田 郁						立山 博邦	
	秋semester期	有井 健	ROSE John A.	吉田 香織		金 賛會	夏田 郁	CORTEZ Michael A.						
2016年度 (14年度募集)	春semester期	VYAS Utpal	井口 由布	田原 洋樹		CLASTER William							秦 嘉美恵	
	秋semester期	銭 学鵬	ROTHMAN Steven B.				鈴木 泰	BARAI Munim Kumar						
2017年度 (15年度募集)	春semester期	MEIRMANOV Serik	PISHVA Davar	LEE Timothy		藤本 武士	藤井 誠一						平井 達也	
	秋semester期			高柴 優貴子	GHOTBI Nader			CHEN Shu-Ching	李 根熙					
2018年度 (16年度募集)	春semester期	笹川 秀夫	AISINGIRO Uihicum			BEISE-ZEE Marian	KIM Sangho	MAJUMDAR A.A.K.						
	秋semester期	山下 博美	吉川 卓郎			ALSOBIYANA Lailani							カッティング 美紀	
2019年度 (17年度募集)	春semester期	吉松 秀孝(辞退)	総田 芳憲	PROGLER Joseph		汪 正仁								
	秋semester期	MAHICHI Faezeh	児島 真爾			中島 克志	KIM Rebecca ChungHee	高妻 倫太郎		ベルガー 舞子			轟 博志	
2020年度 (18年度募集)	春semester期	BUI Thanh Huong	佐藤 洋一郎			ASGARI Behrooz	夏田 郁							
	秋semester期	吉田 香織	VYAS Utpal			上原 優子				PATTISON Steven	金井 秀介			

7. 2018年度大学院修士課程学生フィールド・リサーチ補助制度による採択実績

7. Acceptance for AY 2018 Master's Student Field Research Support Program

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
Number of student accepted	19	25	21	17	13	13	18	15	21	19	12
Budget	¥1,500,000	¥1,500,000	¥1,500,000	¥1,500,000	¥1,500,000	¥1,500,000	¥1,500,000	¥1,500,000	¥1,500,000	¥1,500,000	¥1,500,000
Amount spent	¥1,422,947	¥1,322,122	¥1,551,000	¥1,000,969	¥798,756	¥930,854	¥1,126,696	¥945,329	¥1,421,262	¥1,314,172	¥691,295
Budget execution rate	95%	88%	103%	67%	53%	62%	75%	63%	95%	88%	46%

Spring Semester

no.	Semester	Category	Title
1	2	Field Research	Mobile commerce's adoption in Mongolia / General factors and challenges
2	2	Field Research	Community Union - Civil Society Groups Coalition: Cases of Temporary Migrant Workers in Japan
3	3	Field Research	The role of Cooperatives in promoting Agricultural Entrepreneurs in rural areas
4	2	Field Research	Conflict resolution over water resources between Kyrgyzstan and Uzbekistan
5	2	Field Research	Financial interdependency between diversified and traditional business units: The case of Japanese electronics giants
6			
7			
8			

Fall Semester:

no.	Semester	Category	Title
1	2	Field Research	Community-Based Tourism Sustain Batik Tourism Village in Special Region of Yogyakarta (A Case of Tourism Development in Giriloyo Batik Tourism Village)
2	2	Field Research	A strategy for developing a low interest rate policy in Mongolia
3	3	Field Research	International Dispute Settlement - the edge between international law and politics: Case studies and implications
4	2	Field Research	Foreign brands do brand marketing in Vietnamese market. A case study of Polo basic shirt
5	3	Field Research	The Influence of the Kumamon Brand on International Tourists in Kumamoto
6	3	Field Research	Promotional marketing of theme parks among non-Vietnamese nationals: A case study of Suoi Tien Theme Park, Ho Chi Minh city.
7	3	Field Research	Link between social enterprise and creating shared value in the Vietnamese context: The case study of Koto Vietnam
8			

*Research results will be presented at the presentation session or AP Conference.

8. 博士課程学生への研究支援制度 採択実績

8. Acceptance for Research Support Subsidy for PhD Students

年度/AY	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	Total
採択件数 /Number of student accepted	15	16	20	18	17	13	15	15	16	7	6	158
予算額 /Budget	¥2,000,000	¥2,000,000	¥2,000,000	¥2,000,000	¥2,000,000	¥2,000,000	¥2,000,000	¥1,500,000	¥2,000,000	¥2,000,000	¥2,000,000	¥21,500,000
執行金額 /Amount spent	¥1,680,238	¥1,456,478	¥1,996,910	¥1,793,019	¥1,776,814	¥1,107,587	¥1,047,753	¥1,137,986	¥1,416,030	¥513,380	¥534,812	¥14,461,007
予算執行率 /Budget execution rate	84.0%	72.8%	99.8%	89.7%	88.8%	55.4%	52.4%	75.9%	70.8%	25.7%	26.7%	67.3%

2018年度 採択研究活動の詳細 /AY2018 Detail of Accepted Research Activities

No.	Semester	研究活動区分 /Category of Research Activity	詳細 /Detail
1	2	Conference Presentation	Name of Conference: 2018 International Conference on Hospitality, Tourism and Sports Management Presentaion Title: Direct and Indirect effects of time perspective on tourist's re-visit intention
2	1	Conference Presentation	Name of Conference: ADTA 2018 ASIA PACIFIC TOURISM ASSOCIATION Presentation Title: Situations and Problems on Chinese Cruise Tourism in Beppu
3	3	Conference Presentation	Name of Conference: The Young Scholar's Conference on Philippines Studies in Japan Presentation Title: Enhancing Community Resiliences through Social Enterprise: Lessons from Island Communities in the Philippines
4	5	Conference Presentation	Name of Conference: SWSD2018 Social Work, Education and Social Development Presentation Title: Health, mental health & disability
5	6	Field Research	Location: Tajikistan Research Theme: Modernization of Tajikistan's Economy through the Extractive Industry Sector Development
6	4	Field Research	Location; Bangladesh Research Theme: Impact of Basel Regulation on Bangladeshi Bank Performance and Credit Policy with Reference to Small and Medium Enterprises
7			

*Research results will be presented at the presentation session or AP Conference.

2018年度 AP カンファレンスの開催報告について

1. はじめに

第16回アジア太平洋カンファレンス (AP カンファレンス) は、研究成果を集積・発信し、研究者や実務家、地域とのネットワークを形成することを目的として2018年12月1日(土) - 2日(日)の2日間、APUで開催された。1基調講演、40分科会、400名を超える参加者・聴講者が集い、「Regenerating Localities in a Global World グローバルな世界におけるローカルの再興」をテーマとして発表が行われた。以下のとおり報告する。

2. 概要

<基調講演>

基調講演者：赤坂 清隆 氏 (公益財団法人フォーリン・プレスセンター理事長)

タイトル：アジアの世紀は本当にやってくるのか？

2017年度 AP カンファレンスでは、研究と教育のつながりの強化とともに研究の質と認知度の向上のため基礎を築くと同時に、「researchers' network as one」という国際協力・研究部の目的も達成し、参加者の数とカンファレンスの規模はポジティブな結果と考えられた一方で、ロジスティックスの点では限界に達していた。この経験をもとに、2018年度 AP カンファレンスでは発表の質の更なる向上に重点を置くこととし、新たな取り組みを導入した。その達成度と改善点の概要は以下のとおり。

新たな取り組み	達成度	改善点
APU 教職員への参加費課金	5千円という額は大きくはないが、例年より RCAPS 経常費の支出を削減することができた。	少しずつ収支の見合いがとれる方向を目指し、参加費を小幅に値上げする。
ブラインド審査	発表の質向上のため導入された。結果、これまでの審査方法では採用となったかもしれない本学教員や過去のカンファレンス参加者からの申請も不採用とした。難しい決断ではあったが、より公正な選考プロセスにつながった。	カンファレンス全体の質向上のためにも、厳格な審査とロジ面を考慮した発表者の限度数250名の維持が必要となる。
研究ポスター展示	本学教員19名が参加し、その大多数が本カンファレンス発表者であった。ポスターの一部が他教育機関との共同研究を紹介するものであった。今後も、この取り組みをとおり、カンファレンス参加者間の共同研究への興味を促進していく。	一般県・市民向けにポスターを展示する提案があったが、英語のみで作成されているため、別途日本語版を作成しない限り、掲示場所を見つけにくい。

One-paper-per-person ポリシー	カンファレンスの規模を勘案し適用した。本学教員と学生数名が質疑したが、全体の発表者数を考慮した場合、本ポリシーは妥当であると合意に至った。	複数の著者から同じタイトルとアブストラクトが提出されるケースに留意する。
次年度開催日程の発表	リピート参加者が多いため、カンファレンス最終日に翌年の開催日を発表したことは一定の効果があった。また、日程に関する問い合わせにも早い時期から対応が可能となった。	発表がより効果的となるよう、2日目（最終日）の参加者のつなぎ留めを工夫する。
クレオテックへのロジ業務委託	業務委託により、リサーチ・オフィスの繁忙期の過重負担や人事異動等によるストレスが軽減された。委託当初は、知識・経験の移行作業に時間と労力を要したが、今後は年毎にクレオテックの業務対応も着実に向上すると期待され、これまでロジ業務対応に費やされてきたリサーチ・オフィス職員の手間が省ける。	近年はカンファレンスの質向上に注力しており、クレオテックにもその方向性を踏まえた業務を進めてもらう。参加者間のさらなるネットワークづくりや学内外の大学院生と若手研究者に積極的に参加いただくために新たな施策などを提起することが可能となる。
ディスカッサント*	2017年度のコンセプトを反映し、ディスカッサントが配置された分科会の数は昨年の6分の1から本年度は3分の2に伸び、発表者からの反応も良かった。	討論のさらなる活性化を図るため、ディスカッサントへの発表者の詳細情報提供が課題として残る。
パネル旅費補助金*	補助の対象を本学以外のPhD学生に限定したことで、それまでは他の補助金を確保しうる研究者に支給されていた補助金の削減ができた。	新たな要項の理解不足のためか、申請につながらなかったが、今後も引き続き学外PhD学生向けの支援策を提供する。

* については、昨年度の方針を修正・変更したものを含む。

<カンファレンス参加者アンケート>

参加者に対して、LimeSurveyによる満足度調査を実施した（実施期間：2018年12月13日～2019年1月8日）結果、47名の回答があった（一部複数回答あり）。カンファレンス全体の満足度は総じてポジティブで、「Exceptional」が8、「Very good」が28、「Good」が10、「Needs improvement」が0という回答を得た。特に満足度の高かった2項目は、「分科会の内容」と「研究者間の交流」であった。

3. 参考データ（*RCAPS設立20周年）

AY	申込数	採択数	分科会数	参加者数（聴講者含）
2018	251	226	40	407
2017	378	307	61	428
2016*	329	298	73	483
2015	-	-	38	250
2014	-	-	16	186

4. 経費

支出		収入	
項目	金額(円)	項目	金額(円)
昼食・夕食、茶菓	929,716	RCAPS 経常費	1,586,473
学生アルバイト	82,400	参加費	1,150,000
補助金、雑費	757,791		
その他(委託費、消耗品他)	966,566		
Total	2,736,473	Total	2,736,473

以上

10.

【日本語】

RCAPS セミナー / カレントリーリサーチセミナー

日程	セミナー	タイトル	講師	所属	言語	参加人数	
						教員	学生
18/06/06	Current Research	グローバル・ニッチトップ企業の経営戦略と国際比較	藤本 武士 教授	APU	日本語	3	1
18/06/20	Current Research	Measurement of Brain Working Memory Activity with N-back task and Functional Near-Infrared Spectroscopy	MEIRMANOV Serik 教授	APU	英語	1	30
18/06/20	Current Research	Cold opportunity for Hot spring? Stakeholder cooperation for Beppu tourism development	LEE Timothy 教授	APU	英語	3	2
18/07/03	Onigiri	Traditional music and theater and folklore literature in West Bengal	北田 信 准教授	大阪大学	英語	1	8
18/07/04	Current Research	Justice as a Moral Virtue	GHOTBI Nader 教授	APU	英語	2	4
18/07/11	Current Research	The Impact of Language Barriers on ESL Customers' Dining Experiences	李 根熙 准教授	APU	英語	1	5
18/10/24	Current Research	The Roles of Political Leaders in the Institutionalization of ASEAN Plus Three	TRAN Thi Bich RCAPS Visiting Research Fellow/	RCAPS	英語	2	16
18/10/26	Onigiri	How to promote Japan: public diplomacy and soft power	門司 健次郎氏 (元 外務省広報文化交流部長)	富士通株式会社 AIサービス事業本部	英語	4	28
18/10/31	Onigiri	China and International Order: A New Typological Analysis	HE Kai教授	Griffith University Griffith Asia Institute	英語	1	10
18/11/14	Onigiri	Understanding Okinawa's Current Base Referendum Effort: A Comparison with Previous Plebiscites to Challenge State Authority	Dr. Robert Eldridge President	The Eldridge Think Tank	英語	2	7
18/11/16	Onigiri	Evolution and challenges of international criminal justice procedure -- Comparison between the International Criminal Court	Ms. Saeko Kawashima	Sawara Legal Consulting	英語	1	13
18/12/19	Onigiri	Trend of supply chain logistics – today and future	惠谷 洋 代表取締役社長	CMA CGM (Japan) K.K.	英語	0	14
19/01/09	Onigiri	Deep and shallow perspectives on dark tourism in the Asia-Pacific region: A new framework for engagement	Professor David Weaver	Griffith University	英語	6	12
19/01/15	Onigiri	NCLUSIVE INNOVATION AND FOREIGN TECHNOLOGY INVESTMENT (FTI): Lessons from the Japan-Sri Lanka Innovation Platform (J-SLIP)	President Monte Cassim	Graduate School of Leadership and Innovation, Shizenkan University	英語	8	14
19/01/17	Onigiri	地方小規模映画館が創り出す顧客価値 - 過去、現在、未来 - Customer values which Cinema 5 created in the past, is creating today, and will create in the future	田井 肇 支配人	シネマ ファイブ	日本語	10	15
19/01/21	Current Research	A Stated Choice Analysis of Corporate Rebranding, Foreign Takeover and Production Relocation Abroad	Rian Beise-Zee教授	APM	英語	0	12

2.8125 11.9375

(学外教員2名)

(学外教員2名)

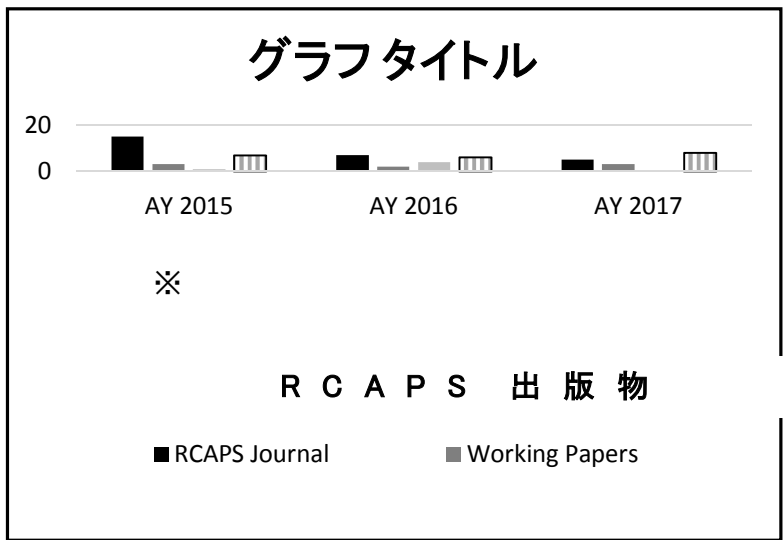
(15名中OCE社員2名)

その他セミナー

日程	セミナー	タイトル	講師	所属	言語	Number of audience	
						教員	学生

11. RCAPSにおける2018年度出版物の刊行実績

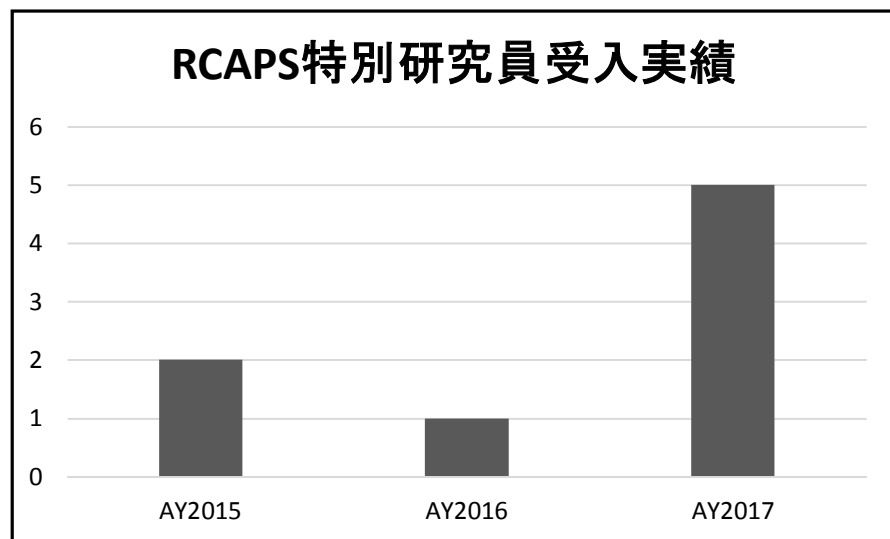
誌名	巻	論文数	備考
Ritsumeikan Journal of Asia Pacific Studies (RCAPS Journal)	Vol. 37	4	オンライン掲載
APU言語研究論叢 (APLJ)	Vol. 4	9	製本済み
ワーキングペーパー	-	1	オンラインでのみ利用可能
ワーキングペーパー (アジア太平洋カンファレンス予稿集)	-	0	オンラインでのみ利用可能



※ AY 2015 ワーキングペーパー (道場)

12. 2018年度客員研究員A受け入れ実績

	氏名	肩書き	所属	期間	APU側受入教員
1	中田 行彦	客員教授	立命館アジア太平洋大学	2017/4/1 - 2018/3/31	—
2	堀 桂子	博士	堀循環器科内科クリニック	2017/5/22 - 2018/5/21	VAFADARI M. Kazem 教授
3	KIDA Danielle Daigle	講師	別府溝部学園短期大学	2017/7/1 - 2018/6/30	SATO Yoichiro 教授
4	TRAN Thi Bich	—	Ritsumeikan Asia Pasific University	2017/7/17 - 2018/7/16	SATO Yoichiro 教授
5	RIVERA John Paolo Ros	Associate Director	Asian Institute of Management	2018/9/1 - 2019/8/31	CORTEZ Michael 教授



13. RCAPS 附属センター活動概要一覧

名称	APU 次世代事業構想センター	民主化支援研究所	ムスリム研究センター	アジア太平洋観光国際センター
設立年	2014/4/1	2014/7/1	2015/4/1	2018/4/1
センター長	牧田 正裕 教授	佐藤 洋一郎 教授	笹川 秀夫 教授	VAFADARI, Kazem 准教授
設置目的	<p>アジア太平洋における次世代のビジネスを構想し、経済社会の持続的な発展に寄与することを目的とする研究センターとして設立する。ドラッカーのいう「すでに起こった」未来 (the future “that has already happened”) を特定し (identify)、そうした変化の本質解明をミッションとするものである。アジア太平洋における中堅・中小企業のイノベティブな動きに内包されている「すでに起こった」未来の本質が何であるかの検討をつうじて、同地域のビジネスや産業発展の将来像を構想するものである。同時に、研究成果の社会的還元をつうじて、アジア太平洋の経済社会の持続的な発展に学術面から貢献するものである。</p>	<p>冷戦終結後の東欧の民主化、2001年同時多発テロ以降の「破綻国家」の再建の国際的要請をうけ、先進諸国による途上国の民主化支援の必要性が高まっている。こうした支援を推進する非政府団体である FREEDOM HOUSE から受託研究で、日本政府による民主化支援についての報告書作成をセンター設置の一義的な目的とし、APU 在籍大学院生による関連研究を包括する。さらに、これを足がかりにグループメンバーによるさらなる外部受託研究・研究資金の獲得、学会発表・論文出版を目指す。</p>	<p>地域におけるムスリム文化との互恵的な共生のあり方、ムスリムの人々を地域社会に受け入れていくことで地域の活性化や地域企業の更なる発展、延いては「地方創生」にも資するようなモデルの構築など、本学らしい多様な文化的背景を持つ多様な専門分野の研究者とムスリムビジネスに様々な形で関与している企業・団体および自治体から受け入れた客員研究員による学際的かつ産学官連携の強みを活かしたアプローチを通じて、ユニークかつ実践的な研究活動を展開していくことを RCMA の活動方針とする。</p>	<p>APU の「自由・平和・ヒューマニティ」の理念に基づきアジア太平洋地域の将来を形成する観光・ホスピタリティの役割を研究している。当センターは、環境、社会経済的および一般人の視点から、アジア太平洋地域における観光事業のインパクトを調査し、学者、地域社会、行政・民間企業および国際機関間の連携の基盤となることを目的とし、ローカルおよびグローバルの発展のための資源の持続的利用に資する成果を評価し、観光学の学際的分野を通じたステークホルダーのアジア太平洋発展への関わりのネットワークを強化しようと考えている。</p>

【APU 次世代事業構想センター】

・ 研究会の開催：

●2018年5月20日

グローバル・ニッチトップ経営の経営革新と国際化ー中小企業への横串支援とイノベーション展開・進展・創出ー研究・イノベーション学会九州・中国支部第18回研究会@九州大学

【報告者】包行良光氏（株式会社筑水キャニコム代表取締役社長）、中山晴生氏（立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授）、銭学鵬氏（立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部准教授）、司会：藤本武士（立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授）

●2018年6月6日

グローバル・ニッチトップ企業の経営戦略と国際比較-「グローバルに活躍する企業の可能性」-； 小規模都市での起業システムの考察：モンタナのケーススタディ、RCAPS セミナー@APU。

●2018年7月13日

「中国の政治経済の動きと日中のイノベーション協力」共催グローバル・ニッチトップ研究会@大分銀行宗麟館

【講演者】杉田定大氏（一般財団法人日中経済協会）

●2018年10月27日

APU 企画セッション「グローバル・ニッチトップ企業における競争要因ー日本とドイツ語圏（オーストリア）企業の比較分析」研究・イノベーション学会全国大会@東京大学

【報告者】ギャビン・ミコール氏（トロテック・レーザー・ジャパン代表取締役）、司会：藤本武士（立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授）

・調査研究活動

科研費および学術研究助成の研究プロジェクト

研究成果：2018年10月「グローバル・ニッチトップ企業における持続的優位性の要因とその相互関係ー日本とドイツ語圏企業の比較分析ー」難波正憲・藤本武士・福谷正信・牧田正裕@第33回研究・イノベーション学会年次学術大会講演要旨集

・おもな年間活動計画

- 1ーNEXT研究会メンバーによる研究会開催あるいは参加
- 2ーAPU学術研究助成の申請
- 3ー研究所の出版
- 4ー外部資金の申請

【民主化支援研究所】

● 佐藤 洋一郎

APカンファレンスを含む国際学会・ワークショップにおける15の発表のほか、Japan Timesで3編、Nikkei Asian Reviewで2編を執筆した。また、横須賀アジア太平洋研究会議で講義を、日本外国特派員協会で本出版の講演を、Washington Asia Forumでスピーチをそれぞれ行った。

● 吉松 秀孝

Mary M. McCarthy 編集のRoutledge Handbook of Japanese Foreign Policyの一章に加え、学術論文2編を執筆した。また、APカンファレンスを含むふたつの国際学会にて発表を行った。

● CHEN Ching Chang

エクアドルとアメリカの国際学会で発表を2回、台湾と中国で講演を2回行ったほか、Journal of Chinese Political Scienceで論文を執筆した。

● KIDA Dani

2017年7月からRCAPS特別研究員として研究活動に取り組み、「Japanese Local Political Participation: A Case Study of Oita」と題する著書をRoutledge社より出版したほか、APカンファレンスで発表を行った。

- SHARMA Santosh
Made a presentation on “Nepal-India Open Border: Implications for Nepal” at the Asia Institute of Diplomacy and International Affairs.
- TRAN Thi Bich
Afrasian Research Centre Working Paper Series で一編を執筆したほか、RCAPS セミナー、オーストラリアの第 25 回 IPSA World Congress of Political Science、フィリピンの第 2 回 PHISO International Conference でそれぞれ発表を行った。
- LAK Chansok
AP カンファレンス、ふたつの国際フォーラム、東京の Japan Foundation での発表のほか、一章の執筆（Routledge 社出版）と、日本とカンボジアの通信社で 4 つのインタビューを行った。
- SEK Sephal
「Bangkok Post」に論評を 6 本寄稿したほか、マレーシアの民主化における若者とソーシャル・メディアの役割についての地域ワークショップおよびタイにおける偽情報との闘いに関する地域ワークショップにそれぞれ出席した。

【ムスリム研究センター】

- 18 年 12 月 11 日（火）にフンドーキン醤油株式会社・株式会社インスパイア・APU の 3 者相互連携協定に基づき共同開発し、NPO 法人「日本ハラール協会」より認証を取得した「はちみつ醤油」の完成披露会を APU で開催し、2019 年 1 月 7 日（月）より APU CO-OP ショップとフンドーキン醤油オンラインショップで販売が開始された。開発に関わった学生プロジェクトチームは、7 カ国・地域（インドネシア・エルサルバドル・シンガポール・スリランカ・ネパール・日本）の異なる出身の学部生・大学院生からなる 11 名で構成された。国際経営学部 PARDO 教授と ALCANTARA 教授の指導の下、大学内で約 800 件のテイスティング調査、インタビュー、商品コンセプトや、パッケージ、価格の提案を経て、フンドーキン醤油株式会社にて生産、ハラール認証の取得となった。
- 2018 年 12 月 11 日（火）に RCMA の研究成果報告会も行われた。発足時に採択された 5 つの研究の研究者より成果発表が行われ、また RCMA の支援により活動し、フンドーキン醤油との連携で近日中に製品発売を迎える、ハラールはちみつ醤油プロジェクトの学生チームによる意見発表もあった。RCMA の活動をサポートして下さった ㈱大分銀行、インスパイア ㈱の来賓への報告、感謝を伝える場となったと共に、学内外の来場者計 35 名に RCMA の活動を知っていただく機会となった。

【アジア太平洋観光国際センター】

国際学会・ワークショップ

当センターの主目的が、学者、地域社会、行政・民間企業および国際機関間の連携の基盤となることを考慮し、センター設立最初の学年度は、世界観光機関（UNWTO）や国際協力機構（JICA）などの国際機関を巻き込んだ国際学会・ワークショップをメンバー全員で共同して開催した。大分県内のコミュニティや国内の大学の修士課程学生が多数招かれ、ワークショップの活動や県内の現地調査に参加した。

研究セミナー

2019 年 1 月、David Weaver 教授による研究セミナーが開催された。Weaver 教授は観光・ホスピタリティ分野において最も著名な研究者のひとりで、これまでに 80 以上の学術論文と Google サイテーションインデックス 11,000 の本 13 冊を出版している。同セミナーは、教員のみならず学部生、院生からも好評を博し、院生の研究のためのサポートネットワークと今後の研究方法を提供した。

社会奉仕活動

国東市や由布市など大分県内の地域社会とともに様々なイベントや教育プログラムを開催した。

国東高等学校プログラム

大分のデスティネーション・マーケティングと GIAHS（世界重要農業遺産システム：世界農業遺産）のテーマとのブランディングを目指し、国東高等学校の学生向けに本校と国東市でワークショップ・シリーズを開催した。

由布高等学校

観光学を専攻する由布高等学校の生徒が、ヘルス&ウェルネス・デスティネーションとして由布市を宣伝するための養成プログラムを、本学と由布市で毎月開催した。

地域活性化に向けた両合地域プログラム

宇佐市役所の協力のもと、人材育成と地方のデスティネーション・マーケティングおよびマネジメントに関する一連のイベントを地域社会と連携して企画しており、2017年4月以来、地域社会は同分野において学界から研修を受け、成功した地方デスティネーションのコミュニティ・リーダーが両合地域を訪れている。本プロジェクトは現在も進行中である。

以上

平成30年度地域連携研究コンソーシアム大分活動実績

学・学連携型研究推進事業

セミナー・シンポジウム

区分	日時・場所	名称	参加者数	備考
シンポジウム	平成30年8月18日（土） 13:30～17:00 マリエールオークパイン日田	防災シンポジウムin日田 九州北部豪雨災害からの教訓	250名	

研究成果公開事業

合同研究成果発表会（産業科学技術センター，大学等による「おおいた創生」推進協議会）

分野	日時・場所	発表件数	参加者数	備考
IoT・情報・電気	平成30年7月31日（火） 13:30～16:30 産科技センター多目的ホール	大分大学 2件 大分工業高等専門学校 1件	76名	
機械・電気	平成30年11月20日（火） 13:30～18:30 全労災ソレイユ7階「アイリス」	大分大学 1件 大分工業高等専門学校 1件	103名	大分県産学官連携推進会議と共同開催

おおいた産学官交流合同シンポジウム

～第3回合同研究成果発表会・大分大学技術交流会・大分市産学交流サロン～
（産業科学技術センター，大学等による「おおいた創生」推進協議会）

日時・場所	発表件数	参加者数	備考
平成31年1月22日（火） 13:30～17:00 J:COMホルトホール大分3F 大会議室	研究発表 大分大学 1件 オーラルセッション 大分県立芸術文化短期大学 1件 別府溝部学園短期大学 2件 学生のポスターセッション 大分大学 4件 大分県立芸術文化短期大学 1件 大分工業高等専門学校 3件 日本文理大学 3件 別府大学 2件	97名	共催 大分市

産学官人材育成・啓発事業

事業名	日時・場所	講師・対象	参加者数	備考
安全保障輸出管理講演会	平成31年2月6日（水） 16:00～17:00 旦野原キャンパス第一大講義室 挾間キャンパス医学部看護学科棟2階211講義室	経済産業省 貿易経済協力局 貿易管理部 安全保障貿易管理課長 猪狩 克朗 氏	155名	

15. Other Research Activities/その他の研究関連活動実績

● MEXT Private University Research Branding Project has picked up APU

APU has applied MEXT Private University Research Branding Project with initiative of Center for Inclusive Leadership (CIL), an RCAPS affiliated research center with the theme “. *Establishing a global brand for APU as a base for the research, cultivation and implementation of inclusive leadership*”. The project is aimed to support universities who try to bring up its brand image through research. APU became one of the 120 awardee universities.

● APU は文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に選定されました

Center for Inclusive Leadership (CIL : RCAPS 附属研究センター)が中心となって、文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に「インクルーシブ・リーダーシップ」の研究・育成・実施拠点としてのグローバルブランド確立」のテーマで応募しました。この事業は研究を通じて大学ブランドの向上を図る大学を支援するものです。全国で120大学が選ばれました。

● 私立大学研究ブランディング事業



● Joint development project with Fundokin Soy Sauce and Inspire Corporation launched its first commercial product

APU'S joints development project with Fundokin Soy Sauce and Inspire Cooperation has launched its first product “Halal Honey Soy Sauce” to the market on January 7.

● フンドーキン醤油とインスパイアとの共同開発による商品の販売開始

フンドーキン醤油とインスパイア社との共同開発プロジェクトの初めての商品「ハラルはちみつ醤油」の販売が1月7日に開始されました。



- **Institutional Crowdfunding**

A team of Center for Language Education faculty led by Professor Honda tried the crowd funding with the theme “Community building which enables co-existence! Exchange program between international students and local communities” to implement an empirical experimental research in order to make Beppu more comfortable. They successfully collected more than 2million yen.

- **クラウドファンディングの取り組み**

本田教授を中心とする言語研究センターの教員のグループが、別府をより多文化が共生できる暮らしやすいまちにする実践的研究を目的に「共生」できるまちづくり！国際学生と地域の交流プログラムを。」のテーマで、クラウドファンディングに取り組み、2百万円以上の資金を集めることに成功しました。

- **Research Compliance/Research Ethic**

We have conducted research compliance training and research ethic training for all newly hired full time faculty and graduate students who were granted internal subsidy, in addition to research ethic training for new PhD students.

- **研究コンプライアンス/研究倫理への取り組み**

新任の専任教員および助成に採択された大学院生全員に研究コンプライアンス・研究倫理教育を実施したほか、PhD 新入生全員に研究倫理教育を実施した。